

2011 くすのき

VOL.22

樟 樹

樟樹会 新居浜西島尋学校同窓会

校内こんなところ(こと)ご存知ですか?

● 第11回 ●

本館玄関の柱に化石が?

西高本館の玄関には車寄せがあつて、その屋根を支える柱には石灰岩が使われています。その表面にはサンゴやウミユリ(海百合)、二枚貝、巻貝、石灰藻、コケムシ等々、たくさんの化石の断面が見えます。中でも、サンゴとウミユリは大きくて形も特徴的なので、はつきりと認識することができます。

最も貴重なのはハチノスサンゴで、図1の指先の位置にあります。図2はその拡大です。石灰岩の表面が風化して見にくいのですが、図2の左上部分が蜂の巣のように見えないでしょうか?この生物は、なんと、古生代シルル紀からデボン紀(絶対年代では3.6億年前〜4.3億年前)に生息していたものなのです。細いパイプ状のサンゴがたくさん寄り集まって群体をつくっていて、その横断面が蜂の巣のように見えるので、この名がつけられました。図3は、別の種類のサンゴの横断面です。円形〜楕円形で、その中心には点のように見える芯があり、そこから放射状にたくさん仕切りが伸びる特有の構造が見えています。これはハチノスサンゴとは異なり、群体を作らない種類で、牛の角のような形をした、四射サンゴと呼ばれるグループに属するサンゴなのです(図4)。

図5はウミユリの「茎」の部分の化石です。この生物は現在も、深い海の底に生息していますが、地質時代には浅いところにたくさん棲んでいました。「百合」とついでいるので植物と思われるかもしれませんが、実は図6のような姿をした動物なのです。海底に根を張り、そこから1mほど「茎」の部分が伸び、先端にエサを捕らえる触手があります。この生物が死ぬと石灰質の部分だけが残り、バラバラになつて海底にたまります。特に「茎」の部分は、大量のドーナツ状の破片になります。つまり、この破片の横断面は中空の円または楕円になり、図5Aのようになるのです。また、縦断面は、図5Bのように竹を縦に割つたように見えます。

さて、このハチノスサンゴを含む石材の産地はどこなのでしょう?愛媛県の西予市城川町や高知県の越知町横倉山あたりに同じような石灰岩があるので、そこから切り出されたものかもしれません。日本ではシルル紀からデボン紀の石灰岩の分布は極めて少ないので、本校に使われている石灰岩は貴重なものです。どうぞお暇なときは、じっくり目をこらして化石探しをしてみてください。

(文責 横山忠正・本校校長)



図2 5mm



図1

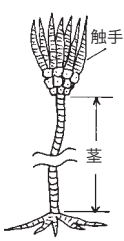


図6



B 1cm

図5



A 1cm



図4



図3 1cm



樟樹会会長
畑田 雅敏
(昭和44年卒)

同窓会名簿

この度の東日本大震災により同窓の会員各位におかれましては被害はなかったでしょうか。被害に遭われた皆さまには心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今回の国難とも言うべき大災害は、現在の科学や技術で対応できない自然の脅威や甚大さをまざまざと見せつけられました。21世紀は、これまでに解明されていない事が全て解明されると予言されていますが、我々人類がこれから解明していかなければ明るい未来は無いと痛感いたしました。

新居浜西高等学校の在校生もOBも、人類のためにという大きな見地で勉学や仕事に取り組んでいただきたいと願っております。

さて、同窓会活動は、卒業生名簿の管理、会誌「樟樹」の発行をとおして、卒業生間の親睦や情報交換に協力しております。また、一方では、在校生のため、運動設備や校旗掲揚台などの付帯設備を寄贈したり、全国大会出場支援や、卒業式では勉学・部活等で顕著な成績を収めた生徒を表彰し、記念品を贈呈するなど、他校と比較しても先輩として恥ずかしくない活動をしております。

平成19年の創立90周年に名簿を新しくして早4年になりました。来年は名簿更新の年です。この4年間で新たに約1,300人もの卒業生を輩出いたしました。この名簿更新におきましては、今回も名簿作製業者サラトを通じて個人情報保護法に則り、それぞれ会員個々の意思を反映させながら編集するよう、昨年度の理事会で決定し、作業を進めております。(株)サラトは同窓会が指定する名簿作製業者でありますので、サラトから送付される内容を十分ご確認の上、会員個々の責任で

ご回答いただければ、名簿への掲載可否ならびに変更も出来るよう指示しておりますので、なにとぞ趣旨をご理解いただきまして、絶大なご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、待望の2011年樟樹会総会・懇親会は、8月6日土曜日に、レイヴラツツエふじ(旧称…ふじ結婚式場)で開催いたします。昨年同様OB・OGの多数がご参加いただけますようお待ちしております。お元気なお顔をお見せいただき、名簿発行や来たる創立100周年などの話題に花を咲かせていただければ、同窓会としてこの上ない喜びでございます。

最後になりましたが、会員の皆さまのご健勝をご祈念申し上げますとともに、日頃の本会活動へのご理解ご協力に感謝し、本年度もこれまで以上のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。同窓会会長としての挨拶とさせていただきます。

支那だより

第15回 近畿くすのき会

総会・懇親会

幹事長 北脇重康
(昭和31年卒)

第15回近畿くすのき会総会・懇親会は、平成22年7月3日(土) 大阪弁護士会館で開催しました。

総会には樟樹会から畑田会長、母校の横山校長をお招きしました。また丁度大阪に来られるご予定のあった、東日本樟樹会井上会長もおいで下さいました。懇親会では昭和32年卒、津上さんのお嬢さん、津上信子さんのフルートとベース、ギターによるジャズライブを楽しみました。

今回の会場は、近畿くすのき会会長加藤さんのご尽力で、使わせて貰う事になりました。会場が長い時間使えましたので、懇親会終了後会場と同じフロアの部屋も使って二次会を行いました。色々の年代の人が入り乱れての懇談の時間を過ごしました。会場の10階、とくに二次会用に使った部屋は中之島公園を一望に見渡せる絶好の場所です。あいにくの雨でしたが眺望も楽しめました。



二次会



ジャズライブ

部屋も使って二次会を行いました。色々の年代の人が入り乱れての懇談の時間を過ごしました。会場の10階、とくに二次会用に使った部屋は中之島公園を一望に見渡せる絶好の場所です。あいにくの雨でしたが眺望も楽しめました。

生

にわたり活躍されている
するコーナーです

介

Profile

昭和37年 新居浜西高等学校普通科卒業
家業を継ぐ
昭和41年 日展初入選
昭和49年 光風会会友に推挙される
昭和58年 愛媛県美術会 会員優賞受賞
平成13年 新世紀会(あらたかい)主宰
平成21年 第95回記念光風会展特別記念賞受賞
平成22年 第42回日展 特選受賞
現在 在 : 寿商事株式会社 代表取締役会長
新居浜商工会議所 商業部会長
社団法人光風会評議員
愛媛県美術会常任評議員
新居浜市郷土美術館審議会会長
新居浜文化協会顧問



日野 功

ひの いさを

好きな道一筋に

確か小学校5年生の時だったか、担任の先生がモデルになっての人物写生の授業がありました。独特の風貌の顔を描いている内に真つ黒になり、しようがないから目玉を白くトントンと描きました。先生から「目が光つてる」「生きとるよ」と褒めていただき嬉しくなつて、もつと頑張ろうという気持ちになりました。今思うと絵に興味を持った始まりだったように思います。中学校でも美術の先生に恵まれ絵を描くことが益々好きになりました。高校でも、飯尾時春先生のご指導を賜り、十分に基礎を学ぶことができました。

高校卒業直前のこと、包装資材や荒物を扱う商店を経営していた父が他界いたしました。跡を継ぐかそれとも継がずに進学するか。「進学をするなら店を閉める」という母の言葉に、これは家の一大事と一人息子の長男として迷わず後継ぎを決定しました。理系コースのクラスメートは当然全員大学へ進学、行かなかったのは私一人でした。

進学は諦めたものの生来好きな絵画の道は忘れられず、家業に勤しむ傍ら、絵の好きな仲間4人で「凡(ぼん)」というグループを作り光風会や日展を目指して東京へ勉強に出かけたり、グループ展の開催や、毎年全国写生旅行をして十数年間活動を続けました。西高校で教鞭を

とられていた高橋一壽先生もそのメンバーの一人でした。その頃の必死の頑張りが私の原点だったように思います。

この度第42回日展で特選という身に余る賞をいただきました。この上ない喜びと共に重大な責任を感じて居ります。長年に亘り今日までご指導賜りました光風会の先生方、先輩の諸先生並びに母校の恩師の方々、そして仲間友人の皆様のお蔭と心から深く感謝いたしております。三度の食事よりも好きな絵を、半世紀余り描き続けて参りました幸せを今、噛みしめて居ります。

受賞作品の「川治いの家」は、何年も同じテーマで描き続けて参りました。人間の真の喜びとは何か、心の豊かさとは何か。そんな課題に問いかけとしてこのテーマを選びました。そこに住まう人々の質素な中にも幸せに満ち足りた情景を通して、ほんとうの幸せとは、物や金銭の豊かさではなく、心の豊かさであることを表現してまいりたく存じます。

思いますのに、人は心の持ちよう一つで、世の中は繋がり平和になれる。ゆえ



第42回日展(2010) 特選 川治いの家 日野 功

に文化芸術は尊いのだと考えます。現在、21世紀当初に立ち上げました絵画グループ「新世紀会(あらたかい)」を主宰し、垣生公民館で毎月1回勉強会をしたり、戸外で風景写生をして居ります。

年を重ねましたが、70歳ぐらいまでには集大成として作品を発表し、皆様にご覧いただきたいと思つて居ります。

今回の受賞を機に、「努力一番、感謝一番」をモットーに精進を重ねて参る所存です。

どうぞ今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

同窓

文化面、産業界など各界
同窓生をご紹介します

紹

旅の終わりに帰る場所

フランツ・カフカの小品『隣り村』で、「祖父」はこう慨嘆する。人生は驚くほど短い。なのに、若者は「馬で隣り村に出かける」などと決心する。なぜだ。「ふつうの無事に過ぎていく人生の時間でさえ、そんな旅にはとうてい足りない」ではないか。

新居浜にいた頃、これを読んでもまったくわからなかっただろう。しかし、人生も半ばになったいまであれば、老人の言葉にほろろ頷ける。

当時はただただ「村」を出たかった。新しい世界に行けばなんとかなる。本を通じて、異なる見方、考え方があることを知るたび興奮した。〈外〉にこそ希望があると信じていた。

新居浜西高は、人生で一番最初に〈外〉を体験した場所である。それまで通っていた宮西小学校も北中学校も、家から歩いて十分ほどの近所にある。距離でいえば、ところがじつは西高が一番近く、ゆつくり歩いても五分とかわらない。にもかかわらず、そこで初めて〈遠さ〉を感じた。

国領川の西、予讃線の北しか知らない自分にとつて、川の東や線路の南から通ってくる友人たちとの交流は刺激的な経験だった。同じ新居浜人なのに、何かがかすかに違う。そのわずかな薄い壁を見

つけては、なぜだろうと首をひねった。そして、人が人とわかり合うことの微妙さについて考えた。

見えない境界線の存在を認め、その起源を探り、同時にそれを乗り越える方策を模索する。私にとつて、〈学ぶ〉とは、

その繰り返しであり続けた。どんだん学ぶために、どんだん越える。高校にいたときは「川西出身です」と答えていた私は、東京に出てからはあつという間に「新居浜出身です」、いや「愛媛出身です」と答えるようになった。いつしか「四国出身です」という言い方まで身につけた。

それから十年もたないうちに、「日本出身です」と答える世界に飛び込んだ。まるでまさに馬に乗って疾駆するかのような日々だった。川を越え、海を越え、外へ、外へ。しかし、いつたいてどこまで行こうとするのか。

私は何のために〈外〉に出たかったのだろう。この問いに真剣に悩み始めたのは、ドイツで学んだときのことである。冒頭で挙げたカフカの研究者として、ドイツ語で議論し、書くうち、何のために学んでいるのかわからなくなってしまう。私がドイツ語で語る言葉は、いったい誰が受け止めてくれるのか。何のために、いや誰のために、学ぶのか。

日本に帰って、教師という職に就けた

とき、本当はほつとしたのを覚えている。それまで思うがままに手に入れ続けたことを、渡せる場所、伝えられる相手が見つかって、やっと許されるような気がした。

学ばせてもらったことを、次の世代に譲り渡したい。この春以来、あらためてその気持ちを強くしている。ちょうどペルリンに出張中、あの震災が起きた。「いつでもドイツに帰っておいで」——かの地の友人たちの言葉をありがたく噛みしめながら、心のなかでまた確認できた。私が帰る場所は、でもここではない。

原発が次々と爆発するさなか、日本に降り立った。そして、いま暮らしている埼玉に帰り着いて、もうひとつ確かめたこと。まだ、本当には帰っていないのかもしれない。いつの日か私が本当に帰らなければならない場所——それはきつと故郷、新居浜である。

隣の村へ、川の向こうへ行ってみたい。そう思つて馬に乗つて出てきてしまった。人生はたしかにおそろしく短いのだろう。何事もなくすぎたとしても、こんな大それた旅を果たすにはとうてい足りないにちがいない。なるほど何かを得るとは何かを失うことなのだ。失おうとしているいま、ようやくそれがわかりかけている。



明星 聖子

みょうじょう きよこ

Profile

- 昭和58年 新居浜西高等学校普通科卒業
東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
- 昭和63年 東京大学文学部
独語独文学専修課程卒業
- 平成3年 東京大学大学院
人文科学研究科修士課程修了
- 平成5年 ミュンヘン大学(ドイツ)留学
- 平成10年 東京大学大学院
人文社会系研究科博士課程修了
日本学術振興会特別研究員(PD)
- 平成11年 埼玉大学教養学部専任講師
- 平成12年 埼玉大学教養学部助教授
- 平成22年 埼玉大学教養学部教授

の 歩 み

自立心を持ち、感謝の気持ちを忘れず

～夢の実現へ向かって～

男子卓球部 稲見 俊輝^{としき}



昨年、僕たち男子卓球部は愛媛県総合体育大会の団体戦でベスト4に入賞し、四国大会に出場しました。個人戦シングルスでも西原先輩がベスト16に入賞しました。四国大会の団体戦には県内で4校しか出場できません。その4校の内に入ることができたのは、皆さんの応援はもちろん、日々の練習の積み重ねの成果があったからだと思っています。また、女子卓球部では、池田先輩が昨年度の全国選抜大会県予選で優勝し、全国大会出場を決めていましたが東日本震災のため、全国大会が中止となっていました。

僕たちが行っている日々の練習について、少だけ紹介したいと思います。

まず、僕たちが日々の練習の中で最も重要視していることは練習そのものの質の高さです。本当は、質を高めることも大事ですが、練習量を増やすことがより重要です。(一般的には、練習時間に比例して技術や精神力が向上していくと言われていきます。)しかし、公立の進学校である本校において、勉強に追われる毎日の中で練習量を他校と同じくらいにするというのは、至難の技です。したがって他校と比較しても、練習量はかなり限られてしまいます。それでも、試合では、練習量の豊富な高校と対戦しなければなりません。そこには少なからず、練習量の差とい

うものが生じてきます。その差を埋めるために僕たちが求めたものこそが、練習の質を高めることだったのです。練習の質を高めるにあたってやはり大切なのは集中力です。個人の集中力がなければ、質の高い練習はできません。そのために僕たちは、団体としての目標だけでなく、一人一人が個人の具体的な目標を持って練習に取り組むようにしています。僕たちの練習時間は、平日の6時間授業の日は、1時間半から2時間。7時間授業の日は、1時間から1時間半くらいです。休日は3時間半です。いずれも限られた短い時間で、内容の濃い練習を行っています。

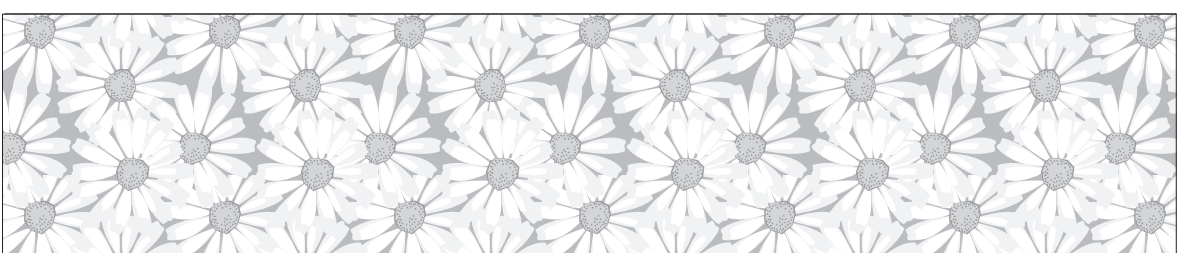
また、僕たち男子卓球部には、決められた練習メニューというものは存在しません。僕たちは自主性を重んじます。先生から、「ああしなさい、こうしなさい」と与えられた受身の練習メニューをこなすだけでは、いつまでたっても、自立することはできません。また、試合本番では周りの応援があるにしても結局は自分で考え、判断し、戦術を組み立て、戦わなければなりません。そのため僕たちは、常に一人一人が今の自分にはどんな練習が必要なのかを考え、自分の課題を持って、それぞれがそれぞれに応じた練習を行っています。(また卓球台の数の都合上、男子卓球部と女子卓球部は日によつて前半と後半にわかれ、順番に

練習しています。そこで僕たちの練習が後半の日は、卓球の練習までに時間があるので、晴れの日は校外をランニングしたり、雨の日は筋力トレーニングをしたりしています。)僕たちがこのように充実した練習ができているのは、いつも温かい目で僕たちを見守ってくださる顧問の井川先生、桐木先生、末光先生はもちろん、試合ではいつも応援に駆けつけてくださる保護者の方々などたくさんの方々のおかげです。いつもありがとうございます。本当に感謝しています。

さて、最近の男子卓球部の活動成績は、東予総体の個人戦シングルスで2位、3位、ベスト8に1人ずつ、ベスト16に2人、個人戦ダブルスで1組が2位、1組がベスト16に入り、計6人が県大会出場を決めました。団体戦でも初優勝を飾り、県大会へ出場することが決まりました。しかし、まだまだ満足できるような結果ではありません。僕たちの目標は県大会の団体戦で優勝することです。この目標を達成できるよう、一球一球全力でプレーしていきます。

これからも僕たちは、感謝の気持ちを忘れずに学校生活、そして部活動に励み、日々、精進していきたいと思えます。

※注 編集委員より
この文章は5月に寄稿いただきました。大会結果はP8をご覧ください。



部活動

文芸部誌「陽だまり」

文芸部 部長 西山 把 成



私たち文芸部は、主に詩・小説・俳句を通して日々創作活動に励んでいます。皆さんの目に見える活動としては、年2回の文芸部誌発行や俳句甲子園への出場、高文祭への出品などです。

ここで、文芸部の活動についてもう少し詳しく紹介したいと思います。

まずは文芸部誌についてです。これは部員たちの創作物を掲載した冊子で、現在は「陽だまり」というタイトルで発行しています。このタイトルはかつて先輩が発行していた部誌に用いられていたものですが、ここ数年は使用されないままになっていました。伝統ある新居浜西高文芸部として、私たちの代で復活させることを決めました。先輩方の築いてきた伝統に恥じないよう部員同士で切磋琢磨し、作品の向上に努めています。年に2回の制作ですが、西高祭でお手にとって頂きます。

また、昨年から俳句甲子園にも参加しています。昨年は全国大会にも駒を進めることが出来、大きな収穫がありました。とは言え俳句に関しては部員全員が初心者、まだまだ俳句を楽しむ気持ちより不安の方が大きかったのも事実です。2年目となる今年私は私たちにしか詠むことの出来ない俳句

をつかみ、再び全国大会へ挑もうと努力しています。

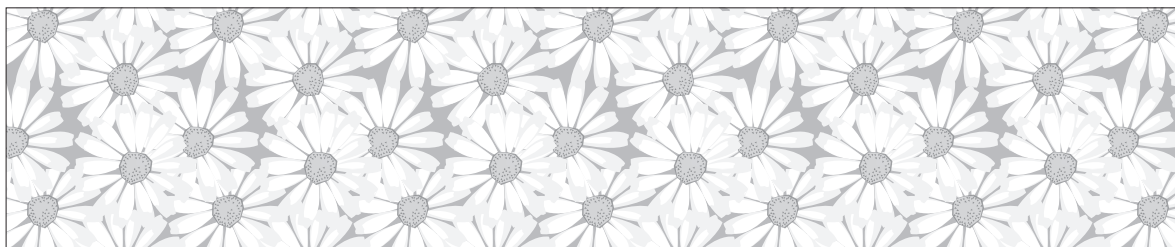
そして文芸部最大の行事となるのが、11月に行われる高等学校総合文化祭です。夏休みいっぱいを作品準備に充て、持てる全ての力を創作に注ぎ込みます。昨年は散文部門と詩部門で最優秀賞、俳句部門で優秀賞を頂くことが出来ました。何時間も作品と向き合い、その中で勉強との両立も果たしていくことは、当然ながら簡単ではありませんでした。作品制作自体は個人での活動ですが、限られた時間の中で全力を出し切る為には部員たちの結束が欠かせなかったと思います。受賞も個人のものにはなりません、部員全員でつかみとった勝利だと思っています。

そのほかにも様々なコンクールや公募に参加し、それぞれが自身の世界を広げました。時には努力が実を結び、嬉しい結果となることもありました。そんな時、

うしろを振り返ればいつも、たくさんの方々が笑顔に向けてくださいます。先生方をはじめ保護者の方々、友人、そして地域の方々。本当に多くの方に支えられ、文芸部の日々の活動が成り立っているのだと実感するばかりです。だからこそ文芸部は創作に専念することが出来ました。

私たちは今、目前にせまった俳句甲子園に向けて練習の日々を送っています。それと同時に、文芸部誌発行の準備にも取り掛かるうとしているところです。文芸部にとって最も忙しい時期が、これから夏にかけて始まります。部員ひとりひとりの目標は異なっていますが、誰一人として妥協する人はいないと思います。詩・小説・俳句、どの部門においても全力を尽くし全国大会という舞台を目指します。そして私たちが何かしらの結果を手にした時、応援してくださった方々に再び笑顔に向けて頂けるよう努力します。

作品を通して、文芸部がまさに、西高における「陽だまり」のような存在になることが出来れば幸いです。これからも応援よろしくお願ひします。



母校の概況

Nihama-Nishi High School

地域に愛され、期待される学校を目指して



校長 横山 忠正

樟樹会の皆様には、母校新居浜西高等学校に対し、変わらぬご支援・ご協力をいただきありがとうございます。こと、厚く御礼申し上げます。ところで、3月11日に起こった東日本大震災では、被害に遭われた会員の方もおられるのではないかと案じております。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。本校では、卒業生2名が東北大学の受験で仙台に行き、被災しました。幸い、2人ともけがはなく、一週間ほど避難所で生活した後、

無事新居浜に戻って参りました。

彼らはその後合格通知を受け取ったとのこと。このように、東日本大震災は、日本の各地に様々な影響を及ぼしています。本校としても、被災地のできるだけ早い復興を願いつつ、募金活動を行ったり、物資を送ったりするなどの支援活動を行っているところで。

平成22年度の生徒の活躍

進学については、後のページに示してある通りですが、卒業生の多くが志望校に合格し、夢を実現させています。部活動については、文化部、運動部ともに大いに活躍し、国体の陸上競技3,000メートルで5位入賞とか、卓球選抜大会県予選1位、俳句甲子園全国大会出場など立派な成績をおさめた

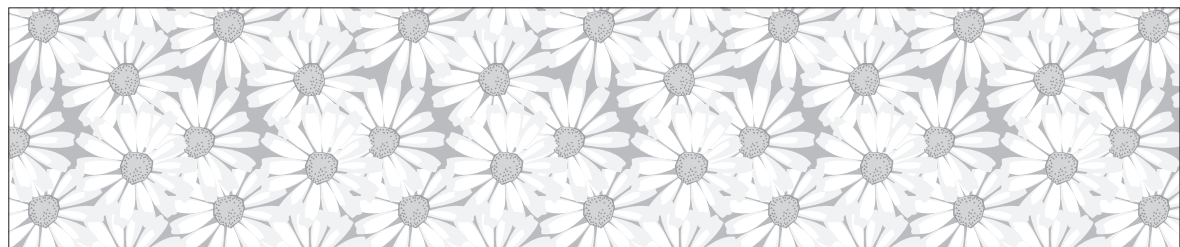
生徒もいます。このように、昨年度も文・武両面にわたる活躍が見られました。

平成23年度を迎えて

本年度、全日制の募集定員は1クラス減り、7クラス280名となりました。にもかかわらず今年の入試では、志願変更前には昨年とほぼ同数の300名を超える志願者があり、志願変更後でも定員を10超えて一般入試を迎えました。西高入学を希望する中学生が多いことは、大変ありがたいことです。その結果、本年度の全日制は、新入生280名を含めて857名でスタートしました。今年も生徒諸君は、文武両面において、大いに活躍してくれるもの期待しております。

定時制課程には、4月8日現在107名の生徒が在籍しています。単位制を採用して以来、生徒数は大幅に増加しました。また、単位制のメリットを生かして3年間で卒業していく生徒が増えてきました。マイペースで学習し、夢を実現しようとする人や、学校生活をやり直してみようと思う人にとって、本校定時制の存在価値は大きいのです。定時制の生徒たちへのご声援・ご支援もよろしくお願ひします。

以上、母校の現状をご紹介いたしました。本年度も、どうか一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



教職員の異動

《転入》

国語 加藤あゆみ(中山)
 国語 菅 伸明(新居浜工業)
 地公 弓立 克法(西条)
 地公 平田 剛啓(今治西)
 地公 松木 洋(今治南)
 理科 吉田 明正(松山東)
 理科 桐木 英文(大洲)
 理科 末光 可奈(新規採用)
 理科 福田 克典(小松)
 保体 西崎 祐輔(松山南)
 保体 藤原 栄二(新居浜工業)
 芸術 日野 右子(土居)
 英語 森井夕季(三島)
 英語 山下 哲(三島)
 事務 渡部 秀樹(今治南)
 事務 藤原 由和(金生第二小)
 事務 村上 慎也(西条農業)

《転出》

国語 日野 真紀(今治特別支援)
 国語 岡田由嗣子(新居浜工業)
 国語 田野 尚子(今治南)
 地公 井原 恒久(川之江)
 地公 渡邊 洋人(土居)
 地公 日下 賀喜(舟原)
 数学 田中 和生(土居中)
 理科 藤田 正史(土居中)
 理科 石黒 貴志(松山南)
 保体 星加 修史(西条農業)
 英語 井川 紀英(今治北)
 英語 篠塚 優子(松山工業)
 事務 松木 和行(三間)
 事務 近藤 千晴(新居浜東)
 事務 河内 秀之(県教委)
 事務 伊藤 憲子(退職)
 事務 津乗 健一(新居浜商業)

同窓生が母校の教壇に立つ

(氏名)

(卒業年)

(教科等)

菅 伸明 (卒業年) S44 (教科等) 国語
 岡田 利文 (卒業年) S45 (教科等) 国語
 中野 静江 (卒業年) S45 (教科等) 実公
 塩崎 勇人 (卒業年) S46 (教科等) 地語
 石川美千子 (卒業年) S47 (教科等) 国語
 吉田 明正 (卒業年) S56 (教科等) 数学科
 渡辺 一生 (卒業年) S56 (教科等) 数学
 浅田 武裕 (卒業年) S57 (教科等) 英語
 日野 右子 (卒業年) S59 (教科等) 英語
 五味むつみ (卒業年) S61 (教科等) 英語
 井川 美穂 (卒業年) S62 (教科等) 英語
 松長 健治 (卒業年) S62 (教科等) 英語
 塩崎 美都 (卒業年) S63 (教科等) 英語
 片岡 大介 (卒業年) H9 (教科等) 英語
 小池 佳子 (卒業年) H9 (教科等) 英語

(氏名)

(卒業年)

(教科等)

倉光久美子 (卒業年) H11 (教科等) 理科
 寺井 美保 (卒業年) H11 (教科等) 英語
 下田 賢吾 (卒業年) H12 (教科等) 保体
 吉村 新平 (卒業年) H15 (教科等) 数学
 藤野 瞳 (卒業年) H20 (教科等) 事務

▼大学合格一覧

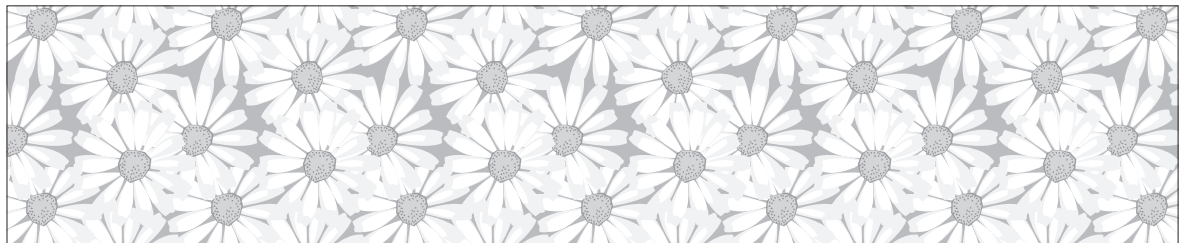
最近3カ年の総合格者数と、大学別合格者数の一部を紹介しておきます。

	21年	22年	23年
国公立大	150	165	157
私立大	393	378	451

北海道大	1	1	0
東北大	1	0	2
筑波大	4	1	3
東京大	0	0	0
京都大	4	4	4
大阪大	7	7	5
神戸大	7	4	5
岡山大	18	16	14
広島大	10	12	10
愛媛大	46	48	39
九州大	0	5	7

▼年間行事計画

月	日	行 事
4	8	全日制入学式・1学期始業式・定時制入学式
5	7	PTA総会
6	17	1学期中間考査(～20日)
	3	県総合体育大会(～6日松山市周辺)
	17	西高祭
6	29	1学期期末考査(～7月5日)
	20	1学期終業式
8	26	2学期始業式
9	3	運動会
	4	定時制・通信制県総合体育大会
	27	2年生2学期中間考査(～9月30日)
10	3	2年生修学旅行(～7日)
	3	1・3年生2学期中間考査(～6日)
11	12	定時制運動会
	19	高校総合文化祭(～20日松山市周辺)
	30	2学期期末考査(～12月6日)
12	20	2学期終業式
	1	6
1	14	大学入試センター試験(～15日)
	24	学年末考査(～3月2日)
3	1	全日制卒業式
	4	定時制卒業式
	19	3学期終業式





6月20日 四国高校選手権

陸上 男子5000M

鈴木 洋平君 1位

平成23年度愛媛県高等学校総合体育大会 結果一覧

6月3日から6日（水泳は6月18日・19日）にかけて、県高等学校総合体育大会が松山市を中心に開催され、本校からも160名の生徒が参加し、各競技で活躍した。主な結果は下記の通り。

● 陸上競技男子

走り幅跳び	重田直也	予選敗退
3000mSC	鈴木洋平	9分30秒69 3位 (四国大会出場)
やり投げ	高橋大地	55m24 2位 (四国大会出場)
5000m	鈴木洋平	15分11秒35 2位 (四国大会出場)
三段跳び	重田直也	予選敗退
砲丸投げ	高橋大地	予選敗退

● 陸上競技女子

400m	脇 葵	予選敗退
1500m	岸 凧海	予選敗退
走り幅跳び	河村昌子	予選敗退
4×100mR	青野・佐伯・高橋・河村	予選敗退
やり投げ	佐伯志織	予選敗退
3000m	加地はるか	予選敗退
100mH	青野紗由美 高橋夏世	予選敗退

● バスケットボール女子

1回戦	新西 85-40	伊予
2回戦	新西 68-59	大洲
3回戦	新西 64-53	八浜
準決勝	新西 50-108	済美 3位(四国大会出場)

● バレーボール男子

1回戦	新西 1-2	川之石
-----	--------	-----

● バレーボール女子

1回戦	新西 1-2	野村
-----	--------	----

● バドミントン男子

団体 1回戦	新西 3-2	松東
2回戦	新西 0-3	新田
ダブルス	天神翔太・玉井晃輔	1回戦敗退

● バドミントン女子

団体 2回戦	新西 3-0	今工
3回戦	新西 3-0	松商
準決勝	新西 0-3	新田 3位(四国大会出場)
ダブルス	大石里奈・小野愛実	1回戦敗退
	和田真佑佳・石丸若奈	1回戦敗退
シングルス	大石里奈	1回戦敗退
	和田真佑佳	1回戦敗退

● 卓球男子

団体 2回戦	新西 3-1	新工
3回戦	新西 0-3	松北
ダブルス	稲見俊輝・鈴木雄太 須崎俊介・旦那 翼	ベスト8 2回戦敗退 1回戦敗退
シングルス	鈴木雄太	ベスト16 (四国大会出場)
	稲見俊輝	2回戦敗退
	須崎俊介	2回戦敗退
	白石 誠	1回戦敗退
	西田知弘	1回戦敗退

● 卓球女子

団体 1回戦	新西 3-2	三島
2回戦	新西 1-3	北宇
ダブルス	亀井さやか・池田桃子	2回戦
	大竹咲枝・平林千春	1回戦
シングルス	池田桃子	3回戦敗退(四国大会出場)
	亀井さやか	1回戦敗退

● ソフトテニス男子

団体 1回戦	新西 1-2	野村
ダブルス	荒井智久・西垣航希	1回戦敗退
	島田恭志・曾我祥帆	1回戦敗退

● ソフトテニス女子

団体 1回戦	新西 0-3	野村
ダブルス	田中優穂・麻植優美香	1回戦敗退

● ハンドボール

1回戦	新西 11-37	松工
-----	----------	----

● 剣道男子

団体 1回戦	新西 0-2	松商
個人	山田悠太	1回戦敗退

● 剣道女子

団体 1回戦	新西 4-0	愛附
2回戦	新西 1-2	松北

● 登山

3位(四国大会出場)

● ダンス

宮沢賢治「よだかの星」	6位
-------------	----

● 硬式テニス

1回戦	新西 0-3	松商
● 新体操	堀菜々美	ボール 20.65点 5位 クラブ 19.95点 総合 40.600点
	西村佑紀	総合 36.575点
	平井沙也香	総合 32.200点

● 水泳男子

100mバタフライ	中村允彦	1分01秒52 7位 (四国大会出場)
200mバタフライ	中村允彦	2分13秒42 5位 (四国大会出場)
400m自由形	越智風太	4分43秒81 予選敗退
1500m自由形	越智風太	18分38秒80 8位 (四国大会出場)

● 水泳女子

200m個人メドレー	高橋万由花	2分25秒31 1位 (四国大会出場)
400m個人メドレー	高橋万由花	5分09秒83 1位 (四国大会出場)

文化部 大会結果

● 放送部	第50回愛媛県高等学校放送コンテスト
アナウンス部門	小野 葵 優秀賞 全国大会出場
創作ラジオドラマ部門	優秀賞 全国大会出場

新居浜の動き

第5次新居浜市長期総合計画が策定されました

新居浜市のこれからのまちづくりの指針となる、第5次新居浜市長期総合計画が策定されました。

この長期総合計画は、私たちの住む新居浜市をどのようなまちにしていくのか、またそのために何をしていくのかを総合的・長期的な指針としてまとめられた市の最高方針計画です。

この計画は、将来都市像を、「一あかがねのまち、笑顔輝くー産業・環境共生都市」としています。

これは、別子銅山の開坑から発展してきた新居浜市の歴史の「礎」を再認識するとともに、今まで以上に市民一人ひとりが誇りを感じ、他のまちの人が住みたい、訪れたいと思うまち、子どもからお年寄りまで、誰もが安全で安心して生活ができるまち、「ものづくり」を中心とし

た産業の振興と地球温暖化などの環境問題への取り組みを通じて、産業と豊かな自然環境・快適な生活環境が共生したまちを目指すものです。平成23年度から平成32年度の10年間の計画となっており、まちの基盤整備や市が行う事業について、市民と行政がパートナーシップを図りながら、実施されます。



住んでよかったと思えるまちづくりを期待します

第19回環境自治体会議 にはま会議開催

第19回環境自治体会議にはま会議が、5月25日から27日の3日間開催されました。この会議は、環境政策に積極的に取り組んでいる全国54の自治体で構成されています。



未来のためにできることから取り組みましょう

自治体や団体間のネットワークづくりを推進し、情報を共有することにより、環境政策を推進することを目的に、平成5年に設立されました。以来、全国各地の市町村で自治体の首長、職員、議会議員、環境団体や学識経験者、企業の環境担当者など、幅広い分野から参加者を集め、年1回の全国大会が開催されています。

「環境と産業の調和をめざして」をテーマに開催されたにはま会議には、全体会と10の分科会を合わせて、のべ2,000人を超える市内外の方々の参加がありました。

新居浜市が体験した別子銅山の煙害問題とその克服に向けた努力等を再認識し、環境保全と産業育成が調和した社会を子どもたちに手渡すことを謳った「にはま会議宣言」が採択され、盛況の内に終了しました。

変わりゆく風景 進む新居浜駅前土地区画整理事業

平成10年度から進められた駅前地区の整備も大詰めを迎え、5月24日には駅前交通広場が完成しました。

JR新居浜駅も、外壁をレンガ調のタイル貼りにするとともに、障害者の方々の利便性を図るため、自動ドア化や、改札口の幅を広げるなど、バリアフリーに配慮した改修がなされました。

また、新居浜駅は、大正10年6月21日に開業されましたが、今年が開業して90周年という節目の年に当たり、6月12日には、駅周辺で写真展や模型列車・ミニSLの走行、連絡船うどんの販売など、にはま駅フェスが開催されました。



完成した駅前広場と改修された新居浜駅

本部だより



卒業式の前日に、同窓会入会式が開催され、全日制、定時制合わせて300人ほどの卒業生があらたに同窓会員となりました。

入会式が行われる頃、例年なら学校内に咲き誇る“ツバキカンザクラ（バラ科）”が満開の見ごろで、あたかも卒業生の同窓会入会を祝っているかのように鮮やかな緋色に染まっているのですが、今年は冬の寒さが長く続きまだ2～3分咲きでした。入会式場となる体育館に一歩足を踏み入ると、そこには厳粛な空気が張り詰め、こちら思わず気が引き締まります。



学年代表のあいさつ

新会員のあいさつに感動を覚えながら、これからの同窓会がますます繁栄しますよう希望を抱きつつ、体育館を後にしました。

平成23年度 事業計画(案)

月日	会合名	事業内容
3月25日	樟樹編集委員会	「樟樹」22号 印刷所承認・概要相談
4月11日	会計監査	平成22年度 会計帳簿類
4月18日	樟樹編集委員会	「樟樹」22号 原稿依頼先および責任者決定
5月7日	第一回常任理事会	平成22年度 事業報告 平成22年度 会計決算報告 平成22年度 会計監査報告 平成23年度 役員承認 平成23年度 事業計画案審議 平成23年度 予算案審議 平成23年度 総会・懇親会開催準備について その他
5月16日	樟樹編集委員会	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合せ
5月23日	第一回理事会	第一回常任理事会と同内容
6月6日	樟樹編集委員会	前回分校正・第2次原稿持寄り
6月13日	樟樹編集委員会	校正
6月17日	西高祭支援	チャリティーバザー(合格たこ焼き・合格焼きそば・フランクフルト・西高どら焼き・ラムネ等販売)
6月20日	第二回常任理事会	平成23年度 総会・懇親会開催準備について 総会の議事内容、運営方法、会員券の販売 招待者、チラシ、ポスター等 その他
6月20日	樟樹編集委員会	最終校正
6月23日	第二回理事会	第二回常任理事会と同内容
7月15日		「樟樹」22号 発行
8月6日	総会・懇親会	平成22年度 事業報告 平成22年度 会計決算報告 平成22年度 会計監査報告 平成23年度 役員承認 平成23年度 事業計画案審議 平成23年度 予算案審議 その他
1月下旬	第三回常任理事会	平成23年度の反省及び平成24年度の予定 同窓会入会記念品及び同窓会賞について その他
2月上旬	第三回理事会	第三回常任理事会と同内容
2月下旬	同窓会入会式	新会員へ入会記念品贈呈
3月上旬	同窓会賞授与	卒業式にて授与(全日制 定時制 若干名)

平成22年度 樟樹会一般会計収支決算書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

	項 目	22年度予算額	22年度決算額	備 考
収入の部	前年度繰越金	3,030,246	3,030,246	
	入会金(全日制)	2,838,000	2,795,100	847人(延べ人数)
	入会金(定時制)	336,600	247,200	25人
	雑 収 入	1,000	799	預金利息・貯金利子
	運 営 会 費	1,500,000	1,244,000	運営会費 279件(3,000円/1口) 賛助会費 24件(10,000円/1口)
	収 入 合 計	7,705,846	7,317,345	
支出の部	会 合 費	1,000,000	1,117,008	理事会・総会補助
	慶 弔 費	50,000	55,000	饌別・香典
	人 件 費	1,440,000	1,440,000	賃金
	事 務 費	120,000	95,193	
	事 務 備 品 費	500,000	433,650	コピー複合機
	同 窓 会 賞	30,000	25,000	全日制 4名 定時制 1名
	入 会 祝	700,000	605,880	全日制 281名 定時制 25名
	支部への補助金	150,000	60,000	各支部総会 お祝い金
	旅 費	200,000	160,000	各支部総会 出席
	生徒への補助金	500,000	520,000	四国・全国大会補助
	その他の事業費	150,000	129,221	西高祭生徒会支援 高校野球広告料他
	通 信 費	200,000	264,583	電話代 切手・葉書代
	雑 費・予 備 費	200,000	238,619	運営会費徴収に関する費用他
次年度繰越金	2,465,846	2,173,191		
支 出 合 計	7,705,846	7,317,345		

平成23年度 総会および懇親会のご案内

日 時 平成23年8月6日(土)
 総 会 17時30分開会
 懇親会 18時30分から
 場 所 レーイ グラッツェ ふじ
 新居浜市高木町3-2
 TEL 0897-34-2211
 チケット 3,000円(一般会員)
 1,500円(平成16年以降卒業会員)

当日も受付けます。
 お気軽にご参加下さいませよう
 お待ちしております。

還暦を迎えて



人生振り返っての一文

藤田修生（昭和45年卒）

私の両親は、昭和6年生まれます。父は代々の農業を営んでおりました。父が18歳の時、西高の夜間学校を卒業した写真が残っております。昭和27年生まれの私が、中学1年生の時、現在の楠中央通りが拡張になって、その関係で自宅が大きくなり、昭和41年から結婚式場を始める事となりました。当時は、父が神主をし、母が神子さんをするといった様な事だったそうです。また、父は一人で何役もこなし、結婚式の司会、打ち合わせ、マイクロバスの運転手などそれらのほとんどを一人で行っていました。現在では考えられない事ですが、1日に10組の挙式があった時もあるそうです。



東京リコー時代のスナップ

も人会しました。29歳で結婚し、3人の子どもを授かっております。（まだ3人とも独身ですが…）

私は、新居浜西高を昭和45年3月に卒業し、その後の約10年間は、東京で生活していました。東京では、リコーに就職しておりましたが、昭和53年、新居浜に帰ってきました。すぐ家業の結婚式場の仕事に就き、JICに

結婚式のスタイルもずいぶんと変化してきました。特に最近では、仲人が居りません。また、ジミ婚や、海外挙式が増えてきました。平成元年に披露宴会場の大増築をしましたが、その2年後に父が交通事故で寝たきりとなり、平成15年に亡くなりました。この12年間というものは、大きな借金を抱え、返済も含め、大変な時期でもありました。また、新規事業として、平成18年、

身内の反対を押し切って、スイーパーホテルを建てました。結果的には、このスイーパーホテルは大人気となり、おかげさまで現在の新居浜市では、人気No.1だと聞いております。

10年程前、リーガロイヤルホテルにて、新居浜西高45年卒業生の同期会が開かれました。幹事のみなさんには本当に苦労されました。100人程集まりました。卒業当時は300人余りもいたように思いますが、第1回目としては大成功だったので

はないでしょうか。懐かしい顔ぶれでした。やはり西高卒業生は、県外在住が多いので、集まるのもなかなか大変です。特に女性は結婚していて連絡が取れない

人も多かったです。親しかった同級生の中に、すでに故人となった方がいたのがショックでした。その後、3回程開かれました。

人生60年経って、現在も元気で歩ける、食べられる、仕事が出来ると。最低限の事が出来るという事に、感謝！感謝！の毎日です。大変簡単ではありますが、人生振り返っての一文を書かせていただきました。



平成17年2月12日 53才誕生日に描いた絵

同期会を開催します
昭和54年普通科卒業生

開催日時
場所
連絡先

平成23年8月13日(土) 17:00～19:00
リーガロイヤルホテル新居浜
難波江 任 携帯SBM 080-3927-1558
E-mail t-nabae@eiai-works.jp

同期
会
俾
り

GOGO会
書評500冊達成記念旅行

妹尾(佐々木)次郎(昭和55年卒)

同期会といっても、我々GOGO会は、昭和55年卒の理系で新居浜在住の有志を中心としたこじんまりとした集まりです。10年近く前から、2カ月に1度の飲み会を始めたのがきっかけですが、いくつかのルールがあります。

- ① 毎回幹事を持ち回りとする
- ② 1度利用した会場は使えない
- ③ 毎回1冊以上の書評を事前に提出する(提出しないと飲み会への参加資格なし)

狭い新居浜で、同じ会場が使えないとなると、結構頭を悩ますこととなります。また、書評は本のジャンルを問わず、読んだ感想を自分なりにまとめて提出し、エクセルデータとしてメンバーだけがウェブで閲覧できるような仕組みになっていきます。その書評の数が延べ500冊に達したのを記念に、ゴルフを兼ねた小旅行を行いました。参加人数は、新居浜から6名と転勤族が東京から2名集まり計8名です。前泊組は京都に泊まり、葵祭りを控え数千の折りたたみ椅子が、整然と並べられた京

GOGO会 書評500冊達成記念ゴルフ
於 太平洋クラブ宝塚コース
平成23年5月14日



都御所の庭の散策を楽しみました。

翌日は、太平洋クラブ宝塚コースにて2組8名によるコンペでした。良く管理されたゴルフ場でしたが、一人のお気楽社長を除き久しぶりのゴルフであったせいか、珍プレー・好プレーが続出。スコアよりも、いかにして笑いをとるかといったゴルフでした。

その日は、有馬温泉の金泉・銀泉の湯で汗を流し、宴会となりました。ゴルフの成績発表の後は時を忘れて酒を酌み交わしました。あまりの馬鹿話に、久しぶりに涙を流しながら笑い、皆大きくなった腹を抱えつつ有馬の夜は更けていったのでした。

最終日は、神戸の街を散策。運よく神戸祭りが行われており、どう見ても香港から来たようにしか見えないおっさん8

人が、港町のお洒落で華やかな雰囲気の中を闊歩しました。新神戸駅で東京組と別れを告げ、新居浜組は淡路島経由で帰路に着きました。あつという間のミニ修学旅行でしたが、日常から離れることができリフレッシュできました。

今回は、1,000冊記念旅行です。60歳前に達成する見通しですが、海外にでも行ければ最高です。それまで、よく働き、よく読み、少しだけ飲み、こころも身体も健康でその日を迎えられるようにしたいものです。

さわやか3組 大集合!

代表 石崎 卓(平成21年卒)

平成23年1月8日、平成21年卒業3年3組の同級会を開催しました。

想像していた以上にたくさんの方のクラスメイトが来てくれて非常に驚くと同時に、とてもうれしく思いました。卒業してからまだ2年しか経っていないため、みんなあまり変わっていませんでしたが、ただ何人かは外見が大きく変わっていて、月日の経過を感じました。しかし、話してみると内面は高校時代とあまり変わっておらず、ともに学び舎で過ごした日々がよみがえり、懐かしさがこみ上げてきました。

会の最後に全体でそれぞれが近況報告をし、将来の抱負について話しましたが、個人的に驚いたのは将来教師になりたいという人が多かったことです。しかし、冷静に考えてみると、これは私が担任



五味むつみ先生に感化されたことにほかなりません。五味先生はいつも私たちのことを気にかけてくださり、私自身も大変お世話になりました。そんな五味先生に受け持っていたいただいたこのクラスに教師志望が多いのは当然なのかもしれません。

あの楽しく、そして大変だった日々をともに過ごしたクラスメイトと再会し、こうして思い出話ができることをとても幸せに思います。また、5年後、10年後そして数十年後にも同じように同級会ができれば良いなあと思います。

最後に出席してくれた皆さん、五味先生、そしてこのような記事掲載の機会を与えてくださった同窓会の方に心より感謝申し上げます。

被災地からの メッセージ



前略、この度の東日本大震災に対しお見舞状を頂き有難うございました。

我家も例外なく、屋根瓦が落ちたり、室内で至る所の亀裂、家具の転倒、食器類の破損等、大きな被害を受けましたが、幸いにもケガもなく自宅にて何とか生活出来る状態です。未だ復興の兆しが見えない東北地方の未曾有の被害に比べれば、命が有っただけでも良くなっただけとはいえ、現在も一日数回の余震が続き、茨城県沖M.8.0前後クラスの確率90%に怯えながらの毎日です。一日も早く以前の生活に戻りたいと願っています。 草々
近況ご報告まで。

水戸市 丹下術代 (昭和40年春)

震度6強をはじめ、震度5を超える地震も4回以上経験しました。幸い大きな被害もなく、家族全員元気です。

被災地からも頑張りを見せ、日本を元気にしたいと思っています。

かすみがうら市 守谷敏之 (昭和55年)

被災地八戸近くに住んでいます。私共は無事でした。

青森県の被災状況は余り放送されていませんが、津波被害は下北半島つけ根まで及んでいます。先日三沢市の林代海岸へ行ってみると、実物大のミスビードル号(初めて太平洋横断に成功した飛行機)は、流されて土台だけしかなく、ある筈のない小型のモーターボートが、松林の中に4~5艘、壊れた状態であり、被害範囲の大きさに驚いたものです。青森県への応援もよろしく願います。

三浦カネ子 (昭和40年春)

樟樹会事務局からおもいがけずお見舞いの葉書をいただき、感謝しております。私の居住地である茨城県南は、もとも震度4程度の地震の多い所ではありますが、今回の東日本大震災は、その強さもさることながら揺れている時間が長かった(3分くらい)ことが驚きでした。本箱の書物がほとんど吐き出されたのは初めての経験でしたが、幸いなことに職場の建物も自宅もその構造には大きな損傷はなく、被害も食器戸棚の割れものが2、3破損した程度に収まり、幸いなことだったと思います。

2ヶ月が過ぎて、余震も体感するのは1日に1回くらいと大幅に少なくなりました。震災後1ヶ月ほど閉鎖されていたショップピングモールも再オープンし、一応平常に戻っていることをお伝えしてお見舞いへのお礼といたします。

3・11東日本大震災から約4ヶ月余が過ぎましたが、同窓生のご家族ご親族、関係者の方々に被害に遭われた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

史上稀にみる甚大な災害となった地震、津波に加え福島第一原発事故が重なり、先行きがなかなか見えない世情不安定な状況が続いています。

さて恒例になりました東日本樟樹会総会懇親会は、5月29日(日)に開催するべく準備を進めてきましたが、前記諸般の事情により熟慮の末、今年は中止させて頂きました。

なお、次回開催は平成24年5月27日(日)を予定しています。

気持ち新たに、多数の同窓生の皆様にお会いできます事を願い、被災された方々の一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。 東日本樟樹会より

編集後記

陸を翹さかって行く波、言葉なく、ただただ啞然とテレビの画面に見入っていました。

大地震だけでも大変な被害なのに、その上に津波と原発事故で、被災された皆さまに對し、かける言葉すら満足に浮かびません。

会員名簿では100余名の方が被災地域にいらつしやいます。同窓会では、この方々にお見舞い状(往復はがき)をお送りし、安否情報をいただきました。その一部をご本人の了解をいただき、本ページ上段に掲載させていただきます。

一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

委員長 近藤 博司(昭44普)	委員 井上 和子(昭20女)	委員 安藤 寛和(昭58普)
委員 世良 賢克(昭26普)	委員 越智 孝司(平2普)	
委員 武田 信之(昭28普)	委員 佐藤 尚史(平8普)	
委員 近藤 司(昭42普)	委員 片岡 大介(平9普)	
委員 畑田 雅敏(昭44普)	委員 日野 愛子(平12普)	
委員 伏見 紀子(昭44普)	委員 吉村 新平(平15普)	
委員 塩崎 勇人(昭46普)		

発行所

樟樹会
〒792-0024

新居浜市宮西町4-46

TEL 0897-3214331

FAX 0897-3214331

発行所 畑田 雅敏

編集者 近藤 博司

印刷所 株式会社サラト

発行日 平成23年7月15日

